

# 東洋経済CSR調査・ CSR評価（ランキング）のご説明

---

2023年4月25・28日

株式会社東洋経済新報社

伊東 優

村山 颯志郎

1. 東洋経済CSR調査の概要
2. CSRデータ利用刊行物・関連サービス
3. 回答企業との対話・外部との関わり
4. 東洋経済CSR調査回答に役立つ関連資料
5. 『CSR企業白書』のご紹介
6. 第17回東洋経済CSR評価・CSR企業ランキング
7. CSR企業ランキングの活用法
8. 公開情報からの調査・評価
9. 今年・今後の東洋経済CSR調査・評価

これまでの調査・評価の報告、資料のご案内

今後の調査・評価のご説明

- 東洋経済CSR調査・評価の概要を知っていただく（基本的な考え方の共有）
- 説明資料等の存在を知っていただく  
※本説明会資料は後日、説明会ページに掲載
- 直接、ご質問いただける場を提供
- できるだけ多くの方とお会いする（双方向のコミュニケーション）

# 1. 東洋経済CSR調査の概要

---

- 中立的な立場である経済出版社として、『CSR企業総覧』という刊行物を発行
- 刊行物・データを通じて、「よい会社」「信頼される会社」を見つけるための基礎情報を収集・提供

# 東洋経済CSR調査は18回実施

## 東洋経済CSR調査の特徴

## CSR企業総覧 編集・制作

## ランキング・集計表

東洋経済110周年（2005年）記念事業として開始

中立的な立場でCSR調査を実施

CSR評価・財務評価を行い、企業の総合評価を作成

「よい会社（信頼される会社）」を見つけるための基礎情報収集・提供

『CSR企業総覧』2冊発行  
2023年版：2022年11月発売

『CSR企業白書』  
2023年版：2023年4月発売



### 掲載情報

会社基本データ

CSR&財務評価・格付け

CSR全般

ガバナンス・法令  
順守・内部統制

雇用・人材活用

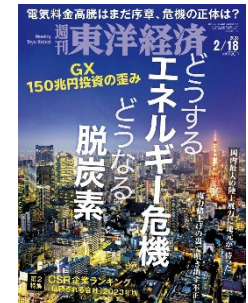
消費者・取引先対応

社会貢献

企業と政治の関わり

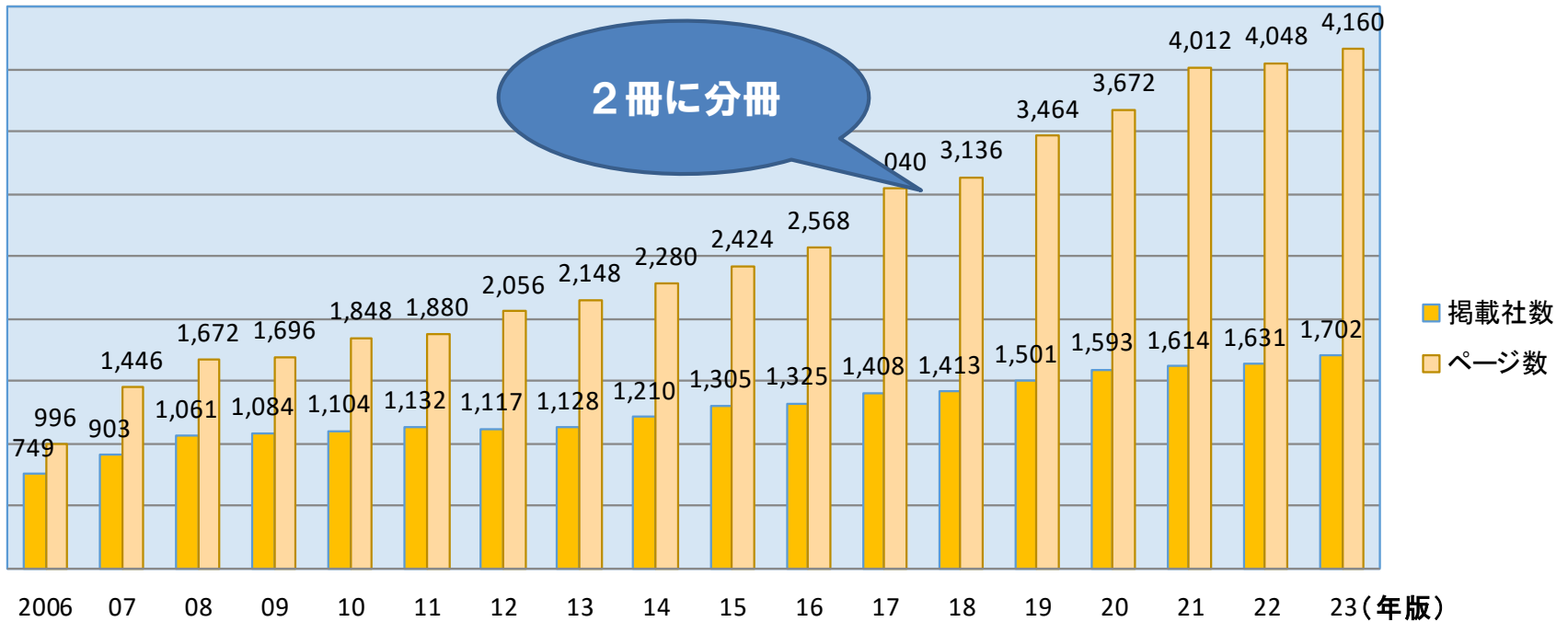
環境

東洋経済  
ONLINE



集めたデータはすべて掲載

## 『CSR企業総覧』掲載社数とページ数



# 東洋経済が考える CSR活動に重要な3つの視点

## ★SDGsに貢献

信頼される会社へ



③社会課題の解決  
(CSVなど)

『CSR企業総覧 (ESG編)』

2017年版から分冊



② ESGの基本的取り組み  
ESG (=環境・社会・ガバナンス)

『CSR企業総覧  
(雇用・人材活用編)』



①人材活用・雇用問題 (H)  
の取り組み

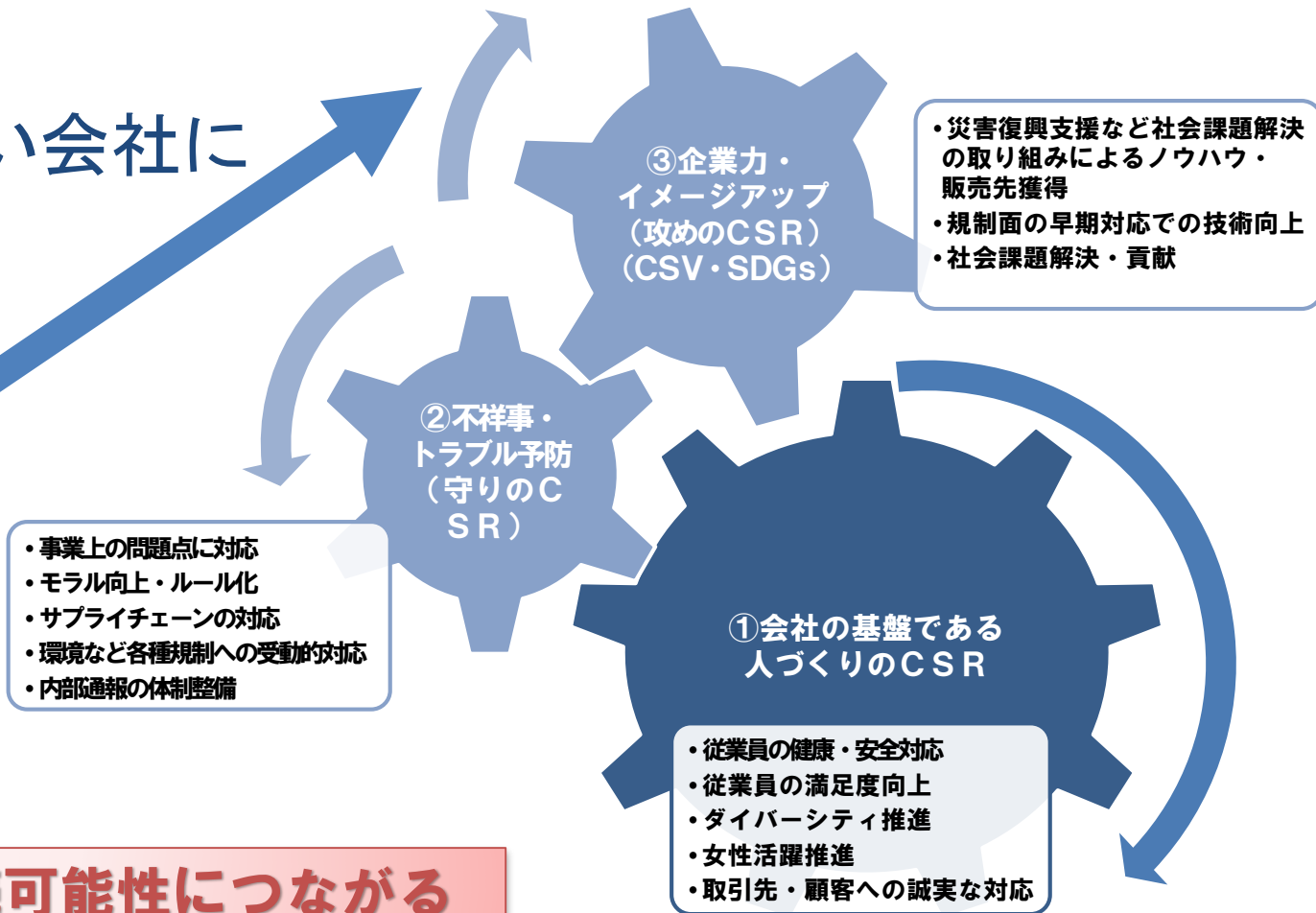
「ESG-H」という枠組みが基本

- ①会社に関わるさまざまな人を大切にしているか？
- ②事業活動で与える負荷を減らすよう努力しているか？
- ③社会課題解決に貢献しようとしているか？



# CSR活動でより強い会社になっていく

より強い会社に



CSR活動の積み上げ

持続可能性につながる

この全体の動きがわかるような調査・評価を目指す

## 傾向

- 調査票ごとに開示のバラつきがある（担当者の差？）
- 回答できないと諦めている
- 回答の手引きなどをあまり読んでいない

## よくある 未回答項目

- ダイバーシティ推進の基本理念
- 内部通報件数
- 障害者雇用率の目標値
- 育児休業取得率
- 各種表彰歴
- BCM・BCP等

- 財務情報中心の企業評価の限界
- 非財務情報への注目度の高まり
- 非財務情報の中心としてのCSR関連データ
- 海外・国内で幅広く情報開示の対象に



**企業を詳しく知るための情報として注目されている**

# これまでにない（ESG）情報を 知りたいというニーズが増えている

## 人材活用では

- 女性管理職人数
- 有給休暇取得率
- 離職者数
- メンタルヘルス休職者数
- 世代別従業員数
- 従業員の年間総労働時間
- 新卒3年後定着率
- 研修時間、研修費用

## 他ESG関連では

- 社会貢献活動支出額
- 政治献金・ロビー活動支出額
- 内部通報件数
- 相談役・顧問数
- 法令違反等
- 生物多様性関連の支出額
- CO<sub>2</sub>排出量（Scope）
- 再生可能エネルギー利用率

こうしたニーズに対応した情報提供を目指す

皆様のご協力のもと、アンケートで情報収集を行ってきた

総合調査

1. 雇用・人材活用編（A3・4枚）

2. CSR全般・社会貢献・内部統制等編（A3・4枚）

3. 環境編（A3・3枚）

※業種・規模に関わらず共通の調査票

※紙とフォーム付きPDF調査票の2種類

※基礎調査は、総合調査1, 2, 3, より18項目を抜粋した調査（A3・1枚）。初めてご回答される企業におすすめ

1. 基本的に前年の調査票を踏襲
2. 調査票の自由記入欄からヒント  
例) 勤務間インターバル制度、週休3日制など
3. 海外や国内の動きから注目データを選定  
例) プラスチック削減の取り組み、再生可能エネルギー利用率など

① 調査票編集

9名のチームメンバーで編集作業

② 編集部チェック

4名の編集部メンバーで確認

③ 入力・校正作業

20名のチームメンバーで入力・校正

④ ゲラ確認

8名の校正士が全体を2回読む

⑤ データチェック

プログラムや校正ソフトによるチェック

⑥ 編集部最終読み

編集部で最終読みを行い校了

ご回答いただいた情報は丁寧にデータ化

## 2. 東洋経済のCSRデータ 利用刊行物・関連サービス

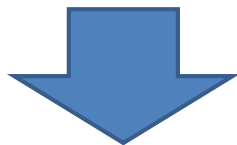
---

- 『CSR企業総覧（雇用・人材活用編）（ESG編）』
- 『CSR企業白書』
- デジタルコンテンツ・ライブラリー（DCL）  
（『CSR企業総覧』オンラインサービス）
- 東洋経済ESGオンライン
- データベース（CSRデータ・CSR評価データ）





どこで見られるのか？



## CSR企業総覧 CSR企業白書

- ・ 紙・電子書籍で発行
- ・ 『CSR企業総覧』オンラインサービス
- ・ 図書館などの購入
- ・ 日経テレコン、G-searchなどでも閲覧可能

## デジタルコンテンツ・ライブラリー (DCL)

- ・ 東洋経済のほとんどの媒体がWebで見られるサービス
- ・ 学生は自宅やスマホからも閲覧可能
- ・ 全国130以上の大学・公立図書館・企業で導入
- ・ 首都圏の主要私立大学を中心に拡大中
- ・ 就職や研究に利用

## 東洋経済CSRデータ

- ・ 『CSR企業総覧』掲載情報をデータベース化
- ・ テキストデータとして提供
- ・ 大学や調査機関、機関投資家等が利用
- ・ ランキングデータも

## 東洋経済ESGオンライン

- ・ 2016年1月からサービス開始
- ・ Webサービス
- ・ 主に機関投資家などが対象
- ・ CSR以外に役員、CG報告書などのデータも
- ・ 検索も可能

- 有力・先進1702社を掲載
- 時価総額ベースで全上場企業の87%を網羅

東洋経済 For Research & Analysis

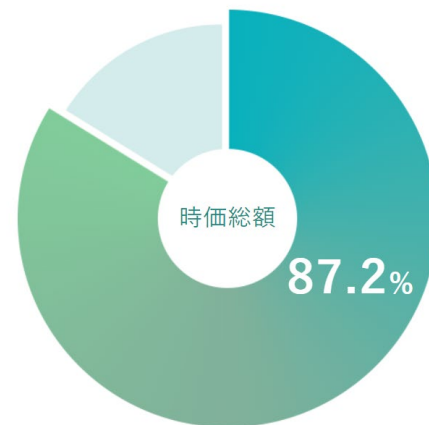


東洋経済 For Research & Analysis

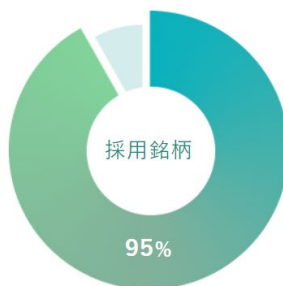


全上場銘柄の時価総額  
750兆2781億円

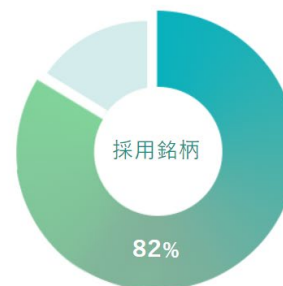
CSR企業総覧掲載企業  
654兆1871億円



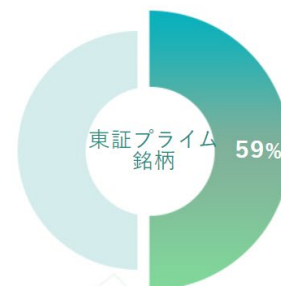
日経平均株価採用銘柄  
225社中214社



JPX日経400採用銘柄  
400社中329社



東証プライム銘柄  
1,837社中1,093社



内容	詳細
解説記事	各分野の専門家によるCSR・ESG情報の解説ページ (重要テーマ30、ESG投資、SDGs、情報開示など)
総合ランキング	CSR企業ランキング、ESG企業ランキング、SDGs企業ランキング、プラチナキャリアランキングなど38
個別ランキング	ガバナンス関連、勤続年数、新卒3年後定着率、女性管理職比率、外国人管理職数、年間教育研修時間・費用、政治献金・ロビー活動等支出額、温室効果ガス排出量(対利益も)、生物多様性保全など85
業種別集計編	制度・方針・体制等：活動のマテリアリティ設定、CSR担当部署、CSR担当役員など152 数値項目：内部通報、障害者雇用率、再生可能エネルギー利用率など124

- 発売日：2023年4月24日発売（全774ページ）

## ●収集したデータはランキングとしても掲載



### CSR企業 300 1~10位

順位	昨年順位	社名	総合ポイント (600)	人材活用 (100)	環境 (100)	企業統治+社会性 (100)	財務 (300)
1	5	富士フイルムHD	574.0	92.4	94.2	97.8	289.6
2	1	日本電信電話	572.9	95.2	100.0	100.0	277.7
3	6	中外製薬	572.0	91.4	90.7	95.1	294.8
4	2	NTTドコモ※	570.2	93.3	98.8	97.3	280.8
5	12	積水ハウス	570.0	85.7	96.5	97.8	290.0
6	4	三井物産	568.9	95.2	96.5	97.3	279.9
7	10	花王	567.9	94.3	89.5	96.2	287.9
8	3	KDDI	567.6	91.4	95.3	98.9	282.0
9	62	NTTデータ	567.3	92.4	97.7	97.3	279.9
10	7	JT	566.7	88.6	94.2	97.3	286.6

## 東洋経済 ONLINE

新卒でないが入りにくいが、勤続年は長い128社

トップの日本航空は新卒採用占有率が100%

「社会貢献にどんとお金を出す」100社ランキング

村山 遥太郎・東洋経済『CSR』編集部

「社員のキャリア形成に熱心な会社」トップ150社

伊藤 直・東洋経済『CSR』編集部

「人への投資」を本当に実践している会社はどこか

109 110 111 112

村山 遥太郎・東洋経済『CSR企業総覧』編集部

2023/03/27 5:20

シェアする ツイートする ブックマーク メールで送る 印刷 拡大 縮小

新卒採用を重視して、新卒で

「人への投資」に注

や転職、副業への支

代を中心に転職を促

新卒採用を重視し、特

そこで今回は、『CS

』のデータを使い、202

含む」と、2021年度

割合を「新卒採用占

多くの上場企

業はどこか。」

献活動支出額の

キングを作成し

金額と率の同

お、さらに詳細

版に掲載する

人口減少と高齢化が進む日本において、企業

としては社員の意欲を高め、生産性を上げるこ

とは喫緊の課題だ。終身雇用など日本型雇用が

見直される中、個人にとってキャリアを主体的

に構築していく必要性は高まっている。

そこで今回は『CSR企業総覧（雇用・人材活

動編）』『東洋経済』2023年版掲載の



トップはSCSK (写真：編集部撮影)

「人への投資」に注目が集まっている。政府が掲げる「新しい資本主義」の柱の1つで、岸田文雄首相はリスクアワード（学び直し）の支援などへ5年間で1兆円を投じるとしている。

人口減少と高齢化が進む日本において、企業としては社員の意欲を高め、生産性を上げることは喫緊の課題だ。終身雇用など日本型雇用が見直される中、個人にとってキャリアを主体的に構築していく必要性は高まっている。

そこで今回は『CSR企業総覧（雇用・人材活

動編）』『東洋経済』2023年版掲載の





## ■Webでの検索閲覧サービス（DCL：デジタルコンテンツ・ライブラリー特別版）

1. 『CSR企業総覧』 最新号  
（雇用・人材活用編）（ESG編）（統合版）  
各社ごとのページが閲覧可能
2. 過去の週刊東洋経済「CSR企業ランキング」記事

### ●『CSR企業総覧』



### ●CSR企業ランキング掲載ページ

非財務情報を分析「SDGs500社ランキング」  
週刊東洋経済 7/30  
徹底評価！ニッポンの  
S&G  
就活生から経営者投資家まで必見  
SDGs-財務情報  
週刊東洋経済 2/18  
GX  
150兆円換  
CSR企業 300 1~10位

順位	社名	総合ポイント (600)	人材活用 (100)	環境 (100)	企業統治・社会性 (100)	財務 (300)
1	富士フイルムHD	574.0	92.4	94.2	97.8	289.6
2	日本電信電話	572.9	95.2	100.0	100.0	277.7
3	中外製薬	572.0	91.4	90.7	95.1	294.8
4	NTTドコモ※	570.2	93.3	98.8	97.3	280.8
5	積水ハウス	570.0	85.7	96.5	97.8	290.0
6	三井物産	568.9	95.2	96.5	97.3	279.9
7	花王	567.9	94.3	89.5	96.2	287.9
8	KDDI	567.6	91.4	95.3	98.9	282.0
9	NTTデータ	567.3	92.4	97.7	97.3	279.9
10	JT	566.7	88.6	94.2	97.3	286.6

- 仕様
  - ・ 同時アクセス1
  - ・ 検索システム+印刷可
- 料金
  - ・ 年額120,000円(税抜き)

検索・閲覧可能

- 全国 130 以上の大学・公立図書館・企業で導入

東洋経済 デジタルコンテンツ ライブラリー

お問い合わせ 東洋経済新報社

HOME 収録コンテンツ 活用法 ユーザー事例 導入案内

経済、ビジネス、企業情報誌の検索・閲覧サービス  
デジタルコンテンツ・ライブラリー

『週刊東洋経済』『一橋ビジネスレビュー』『会社四季報』『就職四季報』など、東洋経済新報社の経済・ビジネス・企業情報誌をWEBで検索・閲覧できる図書館向けオンラインデータベースです。スマートフォン用の最適化表示もなされています。

東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー (DCL)を詳しく知るメニュー

**収録コンテンツ**  
総合経済誌『週刊東洋経済』、上場会社情報の定番『会社四季報』、中立・客観的な就職情報誌『就職四季報』をはじめ、東洋経済新報社の主要刊行物を収録しています。  
[詳細を見る](#)

**活用法**  
基本的な操作から、「学術利用」「就職活動利用」まで、DCLの活用法を詳しく説明しています。  
[詳細を見る](#)

**ユーザー事例**  
DCLをどのように利用しているか、インタビューしました。活用事例としてご参照ください。  
[詳細を見る](#)

**お知らせ**  
『東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー』リニューアルのお知らせ (2016/10/18)

**お問い合わせ 導入事例**  
詳しくはこちら ▶  
DCLについてのお問い合わせはこちらからお願います。また、利用料金や無料トライアルなど、ご利用に関するご案内もしております。

**活用法ムービー**  
[こちらからご覧ください](#)

Copyright Toyo Keizai, Inc., all rights reserved.



- 東洋経済のほとんどの媒体が Webで見られるサービス
- 首都圏の主要私立大学を中心に拡大中

## ● 2006年版から15年以上のデータを提供

CSR企業総覧	掲載項目（全1,036項目）
雇用・ 人材活用編	基礎データ（従業員数、新卒入社者の定着状況など）、多様な人材活用、人権・労働問題、障害者雇用、人事評価・キャリア形成支援制度、ワーク・ライフ・バランス、賃金・休暇・諸制度、労働安全性
ESG編	<p>＜CSR全般＞ CSRの基本的取り組み、ESG・CGコード、サステナブル調達など</p> <p>＜ガバナンス・法令順守・内部統制＞ 内部統制への取り組み、リスクマネジメント等への取り組みなど</p> <p>＜消費者・取引先対応＞ 対応部署の有無など</p> <p>＜社会貢献＞ 組織と支出、事業事例</p> <p>＜企業と政治の関わり＞ 税金に関する基本姿勢、政治献金・ロビー活動</p> <p>＜環境＞ パフォーマンス、管理体制、環境リスクマネジメント、地球環境保全への取り組み、2021年度の環境目標・実績など</p>

利用先	主な利用内容
<p>大学の研究者や授業、ゼミ、就職活動などのアカデミック分野 (全体の約70%。海外の大学も)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• データから必要な項目だけ使用</li> <li>• CSRデータを基に独自に評価を作成</li> <li>• 評価データをCSRの達成度として利用</li> <li>• これまでは雇用・人材活用編の利用が中心</li> <li>• 環境や社会貢献等の情報へのニーズが拡大中</li>   <li>• 大学の授業でデータ分析の教材で使う</li> <li>• ESG・SDGs・CSVなどの研究</li> <li>• 財務データと人材活用と生産性への影響の分析</li> <li>• 副業制度の状況と企業パフォーマンスの分析</li> <li>• 従業員世代分布や希望者の65歳までの雇用についての分析</li> </ul>



利用先	主な利用内容
運用会社・シンクタンクなど	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 研究に利用（女性の雇用等）</li> <li>• 基礎データとして利用することが多い</li> <li>• 自らの調査データと組み合わせるなど</li> <li>• 設備・人材投資ETFの基礎情報として利用</li> <li>• プラチナキャリア・インデックスの基本データ</li> <li>• 新しいキャリア形成の研究やファンド開発</li> <li>• 調査研究対象の選定</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 就活向けのサービス 就職活動向けの情報として利用</li> <li>• 企業担当者による他社状況の分析</li> <li>• 他</li> </ul>

- 『会社四季報』 や 『CSR企業総覧』 のデータを活用した、非財務情報の分析を目的とするオンラインサービス

主な掲載項目

<役員情報>

- ・ 役員氏名、移動情報など

<CSR情報>

- ・ CSR全般、人材活用、環境対策など

<コーポレート・ガバナンス報告書>

<大株主情報>

- ・ 株主名、持株数、持株比率など

<財務情報>

- ・ ROE、配当総額、自己株式取得額など

<各種開示資料>

- ・ 決算短信、有報、株主総会招集通知など

■ [6501] 日立製作所 | マイリストに登録 (2件)

会社概要	経営人事	役員	大株主	CSR総覧	CSR	財務	開示
正式社名	株式会社日立製作所	上場市場	東証1部 東証1種				
英訳社名	Hitachi Ltd.	東証83業種	電気機器				
本社	〒160-8580 東京都千代田区丸の内1-6-6	電話番号	03-3258-1111				
従業員	159,281名 (2017年9月)	会社HP	<a href="http://www.hitachi.co.jp/">http://www.hitachi.co.jp/</a>				
取引銀行	みずほ三井住友三行連 三菱UFJ	監査法人	創日本				
代表取締役	野村みずほ 三原ひろし 大和 日興	社長兼代表取締役	東証1種				
法人代表	-	執行役員	みずほ銀行				

	2012年03月	2014年03月	2016年03月	2017年03月	2018年03月
株主総会招集通知開示日				2016/05/24	2017/05/23
株主総会開催日	2013/05/21	2014/05/20	2015/05/26	2016/05/22	2017/05/21
取締役数			指名委員会等設置会社	指名委員会等設置会社	指名委員会等設置会社
ROE	8.1	11.9	7.8	6.1	8.1
約束手当	25.2	20.8	26.8	22.0	23.1
外国人株式保有比率	41.3	45.4	44.9	39.7	41.0
定款上の取締役の任期			1	1	1
定款上の取締役の任期			20	20	20
取締役総数	10	10	12	10	10
うち社外取締役	7	8	8	9	9
うち独立取締役			6	6	6
定款上の監査役の任期					
監査役総数					
うち社外監査役					
うち独立監査役					
女性役員数	1	2	1	2	2
外国人役員数				4	4

利用先	主な利用内容
運用会社・信託銀行など	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 議決権行使業務 取締役の兼任先・数の確認等</li> <li>• 役員情報、議案人事情報の把握</li> <li>• CSR関連情報の調査 諸制度への対応状況等の調査</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 企業担当者による同業他社比較</li> <li>• ESG／CSR推進のための事例把握</li> <li>• コンサルティング業務での基本情報の整理</li> </ul>

## 3. 回答企業との対話・外部との関わり

名称	内容
① CSR 調査・ 評価説明会	2012年開始。今年で12回目。調査についての基本的な内容の説明。作成した資料等の紹介。今年も昨年と同様オンラインでの開催。
② 個別質問会	<p>2016年5月開始。基本的に毎月1回弊社会議室で開催。2020年からはオンラインでも実施。申し込みが多い場合はできるだけ複数日程を設定。</p> <p>2022年4月から2023年3月（実施は4月）までの1年間で合計58社とお会いした。</p> <p>事前にご質問をいただき、個別にお会いしてご説明。ライバル企業との差や自社の得点についてのご質問が多い。<b>ただし、説明会資料の内容をご存知でない方が増えてきたため、まず、この説明会にご出席いただきたい。</b></p>

最新情報は[東洋経済CSRオンライン](#)や[Twitter \(@CSRToyokeizai\)](#)でお知らせ。

- 回答企業への情報提供やさまざまなコミュニケーションを行うための組織
- 2018年2月開始
- 回答企業をメンバーとしている
- 今後、ニーズのあるサービスを有料も含めて検討していく

- **URL**  
<https://biz.toyokeizai.net/-/csr/sustainabilityforum/>



東洋経済  
サステナビリティ

- 有用な情報提供を実施。是非ご参考に。

サービス名	主な内容
<p>CSR File ダウンロードシステム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過去13年分の『CSR企業総覧』掲載ページ</li> <li>・ 過去8年分のCSR企業ランキング報告書</li> <li>・ PDF調査票直近年度分（調査用）</li> <li>・ CSR企業ランキング上位800社</li> <li>・ 格付け一覧</li> <li>・ 業種別集計表</li> <li>・ 各社固有のID・パスワードを使用。ID追加やPW変更なども可能</li> <li>・ 各種レポート</li> </ul>
<p>CSR調査・評価説明会 個別質問会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年1回開催の説明会</li> <li>・ 個別にご質問いただける毎月開催の個別質問会</li> </ul>
<p>東洋経済CSRセミナー</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 優先参加可能（一部有料）</li> </ul>

協力・参加	主な内容
プラチナキャリア・アワード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発足に協力。第3回目以降はデータ提供という形で協力を継続</li> <li>・ プラチナキャリア・インデックスが開始</li> </ul>
読者・ユーザーとの対話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 金融機関（ファンドマネージャー、銀行など）、大学教授、コンサルティング会社など</li> <li>・ 大学の寄付講座</li> </ul>
グリーン購入大賞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第18回（2017年）から後援</li> </ul>
その他個別でご協力・情報交換	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 可能な範囲での公式・非公式での意見交換会の実施</li> <li>・ 依頼があればセミナー講師なども</li> </ul>



**外部との関わりで独りよがりにならない調査に**



# 4. 東洋経済CSR調査回答に 役立つ関連資料

---

- 東洋経済「CSR調査」に関する情報はすべて「東洋経済CSRオンライン」に掲載  
<https://biz.toyokeizai.net/-/csr/>
- とくに御覧いただきたいのは以下のページ
  1. **東洋経済CSR調査ページ（第〇〇回調査（20××年調査））**  
<https://biz.toyokeizai.net/-/csr/research/>
  2. **東洋経済サステナビリティフォーラム：最新の説明会資料**  
（20××年東洋経済CSR調査・評価説明会）  
[https://biz.toyokeizai.net/-/csr/briefing/2023CSR\\_Research.html](https://biz.toyokeizai.net/-/csr/briefing/2023CSR_Research.html)

※本資料のこと

## 1. ご回答の手引き

- 調査票ごとに回答方法、考え方などをご説明
- **項目の追加・削除・変更をまとめています**

## 2. 記入例

- 新規項目等で想定している回答事例などを掲載しています

※上記2つの資料は、前ページ記載の調査ページに掲載

- 郵送している資料はすべてこちらに掲載
- そのほかの掲載資料
  - 新規ご回答企業用のPDF調査票
  - 総合評価を希望する企業向けの財務評価Excel
- 調査終了後に参考資料なども追加掲載
  - CSR企業総覧の目次・見方使い方など
  - CSR企業ランキング上位企業誌面サンプル
  - 独自調査（公開情報のみ）企業の誌面サンプル

- 発表資料
- 主な質問・回答
- CSRデータ各種集計表
- CSR企業ランキング得点業種別集計表
- CSR企業ランキング報告書見本
- CSR企業ランキング評価項目一覧・ポイント  
⇒ 平均点も掲載

実際の画面でご説明します。

- 東洋経済CSRオンライン

<https://biz.toyokeizai.net/-/csr/>

- 調査ページ（前回調査）

<https://biz.toyokeizai.net/-/csr/research/No18-2022.html>

- 説明会資料（本説明会）

[https://biz.toyokeizai.net/-/csr/briefing/2023CSR\\_Research.html](https://biz.toyokeizai.net/-/csr/briefing/2023CSR_Research.html)

## 5. 『CSR企業白書』のご紹介

---



## 掲載内容

1. 巻頭特集
2. 総合ランキング
3. 個別ランキング
4. 制度等・集計表
5. 数値・集計表

- 発売日：2023年4月24日発売（全774ページ）



- 企業のサステナビリティ・CSR担当者
- サステナビリティ関連の研究者・  
コンサルタント・機関投資家など
- 特定分野の専門家（雇用・環境など）
- 大学関係（ゼミ・大学院生・教授等）

- CSR企業ランキング
- ESG企業ランキング
- SDGs企業ランキング
- プラチナキャリアランキング
- 財務力ランキング
- 中堅CSR企業ランキング
- 中堅ESG企業ランキング



多くの企業を掲載

# 「よい会社」 選びに必要な多くの 情報を掲載

- 大卒30歳平均賃金
- 月平均残業時間
- 有給休暇取得率
- 産休期間（法定：産前6週間、産後8週間）
- 育児休業取得者数・比率
- 女性管理職・部長の人数・比率
- メンタルヘルス休職者数
- 内部通報件数
- 世代別従業員数
- 離職者数
- L G B T方針・取り組み
- 社会貢献支出額
- 相談役・顧問
- 内部通報件数の推移
- 不祥事に関する刑事告発など
- 生物多様性関連の支出額
- CO<sub>2</sub>排出量

すべて掲載



# 貴社はどのくらい対応していますか？

制度・取り組み等	社数（比率）
在宅勤務	1,089社（87.3%）
勤務間インターバル	339社（28.0%）
副業兼業許可制度	550社（44.7%）
サテライトオフィス	516社（41.8%）
再雇用制度（あり）	653社（53.5%）
LGBTへの対応の基本方針	517社（42.4%）
人権デューデリジェンスの取り組み	677社（57.7%）
東日本大震災復興支援の取り組み	433社（35.3%）
NPO・NGOとの連携	849社（50.8%）
内部通報件数回答企業	725社（42.6%）
納税倫理規定（あり）	499社（44.8%）
スコープ3（集計）	582社（51.6%）
プラスチック削減の取り組み	691社（59.3%）
気候変動に関するシナリオ分析（行っている）	591社（51.0%）

# この会社は先進企業でしょうか？

項目	数値
障害者雇用率	2.3%
女性管理職比率	10.0%
新卒3年後定着率	90.0%
ボランティア休暇利用者数	年間6人
男性育児休業取得率	50%
社会貢献活動支出額	年間5,000万円

項目	数値
障害者雇用率	629位 平均2.13% (1,382社)
女性管理職比率	376位 平均9.3% (1,496社)
新卒3年後定着率	378位 平均80.2% (1,380社)
ボランティア休暇利用者数	100位 平均171.7人 (439社)
男性育児休業取得率	179位 平均37.7% (610社)
社会貢献活動支出額	342位 平均3億2,040万円 (839社)

# 6. 第17回 東洋経済CSR評価・CSR企業ランキング

---

「信頼される会社」  
をCSRデータを使  
って見つける

- 株式投資・就職先として勧められる会社
- 「信頼される会社」像を考える

定量評価による企業  
評価の仕組み作り

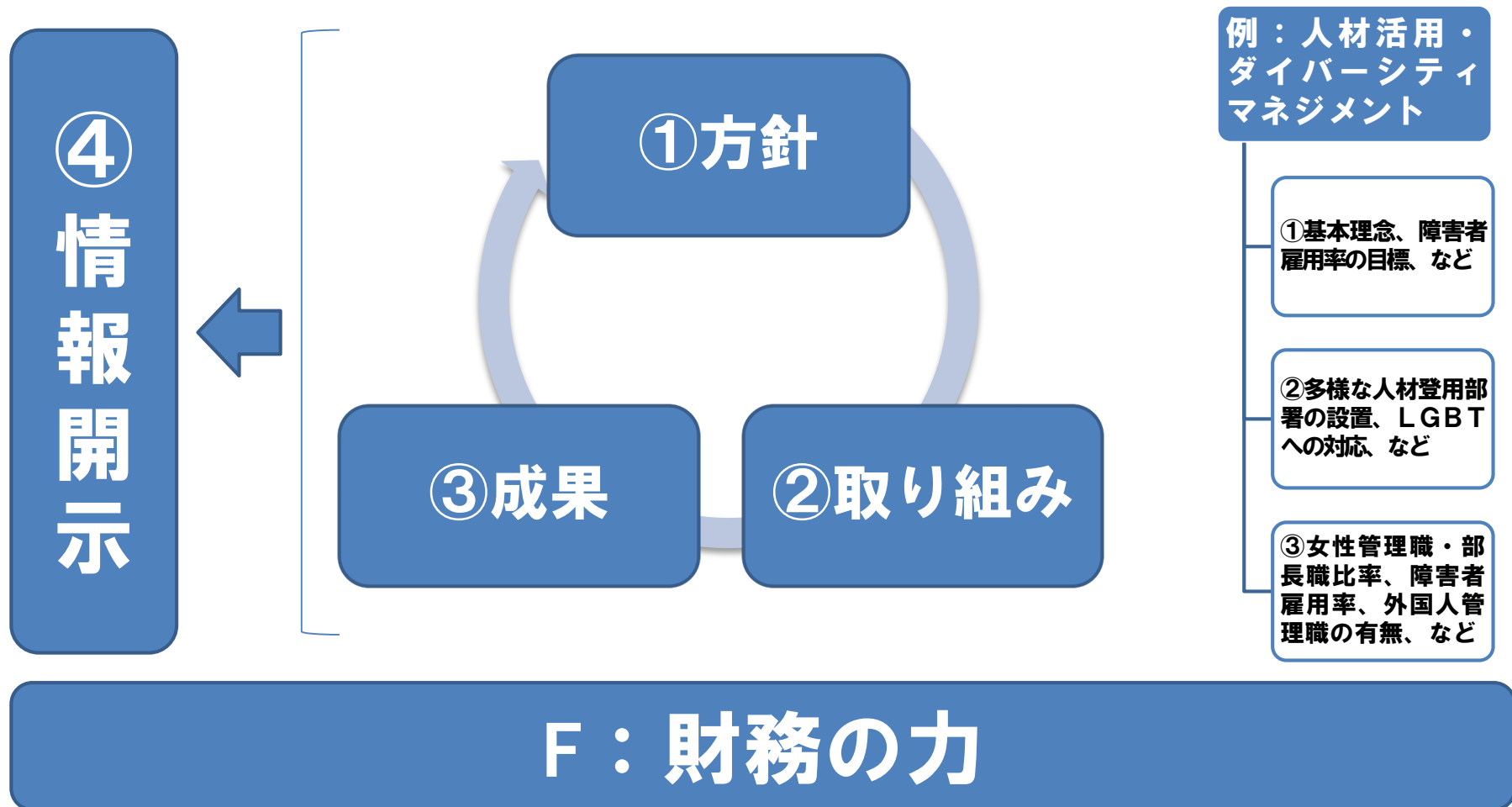
- 数値情報など定量評価での企業評価
- 財務評価とあわせた総合評価

各社のCSR活動  
を見る際の参考情  
報に

- 各企業の取り組みの参考指標のひとつに
- CSR情報を見る際の参考情報（「ものさし」のひとつ）に



## ①から④までと財務の力が両立した会社



**CSR**  
**(300点)**

① + ② + ③ + ④

- 人材活用
- 環境
- 企業統治 + 社会性

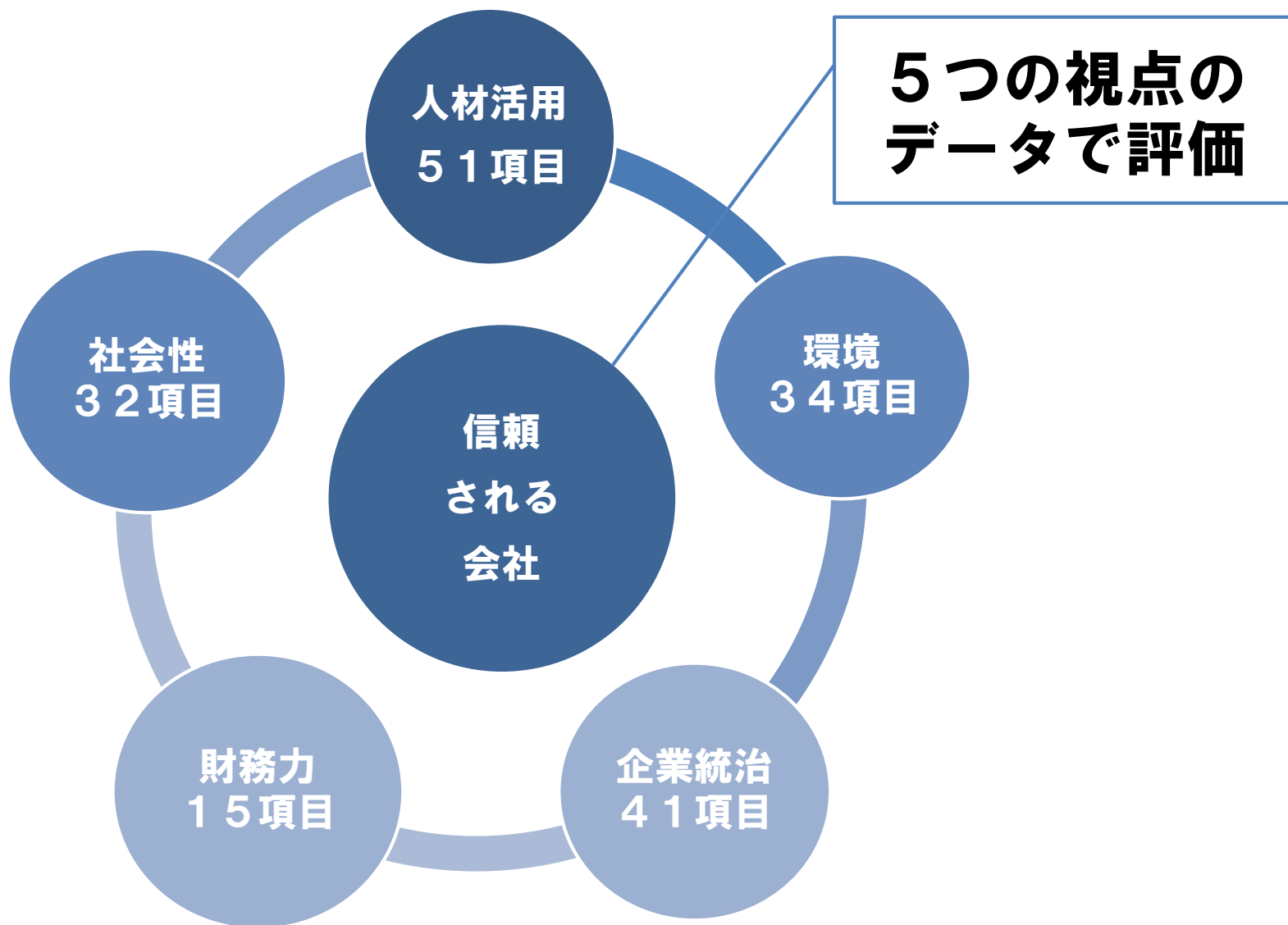


**財務**  
**(300点)**

F

- 収益性
- 安全性
- 規模

# CSR企業ランキング：5つの視点 (2023年版)



順位	前年	社名	総合 (600)	人材活用 (100)	環境 (100)	企業統治 +社会性 (100)	財務 (300)
1	5	富士フイルムHD	574.0	92.4	94.2	97.8	289.6
2	1	日本電信電話	572.9	95.2	100.0	100.0	277.7
3	6	中外製薬	572.0	91.4	90.7	95.1	294.8
4	2	NTTドコモ	570.2	93.3	98.8	97.3	280.8
5	12	積水ハウス	570.0	85.7	96.5	97.8	290.0
6	4	三井物産	568.9	95.2	96.5	97.3	279.9
7	10	花王	567.9	94.3	89.5	96.2	287.9
8	3	KDDI	567.6	91.4	95.3	98.9	282.0
9	62	NTTデータ	567.3	92.4	97.7	97.3	279.9
10	7	JT	566.7	88.6	94.2	97.3	286.6

- 全業種を同じ土俵で見っていく
- 幅広い分野を対応
- 基本的な取り組みを重視
- 数値で把握できる項目を積極的に取り入れる

# 上位はどのような会社か？

## 多くの人「優良」と認める会社

- 業績が安定している
- CSRの主要テーマを網羅している・意識している
- 指標等の数値上昇に努力している
- 幅広くCSR情報を開示している

## 幅広く活動・開示できない会社の評価は低い

- 幅広く活動・開示できない非製造業・中堅は得点が低い傾向
- 環境分野の活動・開示レベルがランキングに影響  
(開示可能な情報も多い)



53 業種内順位や得点の成長率など別の見方もある

# 評価項目の基礎得点のつけ方

- 各評価項目の最大得点は**1～3**点を中心
- 基本的に、現在の実力を評価する
- 数値項目は「率」と記載していれば、「率」で評価。「人数」などと記載していれば、その「実数」で評価
- 重要な項目は率と実数（人数等）の両面で評価  
育児休業取得者＋育児休業取得率など
- 数値項目は全社の平均値などを参考に得点ルールの見直しを定期的に実施  
障害者雇用率、女性管理職比率など
- 文章項目は基本的に該当する内容が書いてあれば得点

⇒ 「評価項目一覧」にポイント・得点を記載

# CSR 評価の具体例（人材活用）

TOYOKEIZAI

評価項目	評価内容
女性管理職比率	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>15%</b>以上：2点</li> <li>• <b>8%</b>以上：1点</li> </ul>
女性部長比率	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>10%</b>以上：2点</li> <li>• <b>4%</b>以上：1点</li> </ul>
新卒入社者の定着度 （3年後定着率）	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>95%</b>以上：4点</li> <li>• <b>85%</b>以上：3点</li> <li>• <b>75%</b>以上：2点</li> <li>• 回答有：1点</li> </ul>
勤務形態の柔軟化に関する諸制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1つの制度：1点</li> <li>• ただし、合計点は最大5点</li> </ul>
従業員のインセンティブを高めるための諸制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1つの制度：1点</li> <li>• ただし、合計点は最大5点</li> </ul>



# CSR 評価の具体例（CSR全般・環境）

TOYOKEIZAI

評価項目	評価内容
内部通報件数	<ul style="list-style-type: none"> <li>2年連続数値回答あり：3点</li> <li>1年のみ数値回答あり：2点</li> <li>その他の回答：1点</li> <li>他実行性向上への取り組み回答：+1点</li> <li>2年連続一定以上の件数：+1点 最大5点</li> </ul>
地域社会参加活動実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>何らかの活動実施（回答あり）：2点</li> </ul>
自然災害・パンデミックへの支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>（東日本大震災）行っている：2点</li> <li>昔行っていた：1点</li> <li>東日本大震災以外でさらに加点。</li> <li>（新型コロナ課題解決）行った：2点 最大4点</li> </ul>
環境法令違反の有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>2年連続ゼロ：3点</li> <li>2年回答があり、いずれかゼロ：2点</li> <li>回答あり：1点</li> </ul>
温室効果ガス（Scope 1+2）排出量削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>2年連続回答あり：+1点</li> <li>排出量（Scope 1+2）の昨年比削減率が一定以上：+2点 最大3点</li> </ul>

# 2023年CSR評価

## 基礎得点満点、最高得点・企業

各評価項目の得点を合計し基礎得点を算出		満点(項目数)	最高得点 達成率(前年)	社名
	人材活用	113点(51項目)	105点 92.9%(93.7%)	三井住友フィナンシャルグループ
	環境	88点(34項目)	86点 97.7%(98.8%)	日本電信電話
	企業統治	98点(41項目)	98点 100%(100%)	東京海上HD、日本電信電話、アサヒGHD、KDDI、NEC、ヤマトHD
	社会性	87点(32項目)	84点 96.6%(96.5%)	日本電信電話、オムロン、第一生命HD、ZHD
	企業統治+社会性	185点(73項目)	182点 98.4%(97.8%)	日本電信電話

# ランキングはトップの基礎得点が基準

- 格付けは基礎得点の段階で作成
- ランキングはトップの基礎得点を基準（100点になる）
- 基礎得点の最高点は毎年変化
- トップの基礎得点が上昇すると、昨年と同じ基礎得点では評価は下がる



★2000年	基礎得点	得点
A社（1位）	80	➡ 100
B社（■位）	50	➡ 62.5

倍率（1位のA社が基準）

$$100 \div 80 = 1.25 \text{倍}$$

$$\text{B社得点} = 50 \times 1.25 \text{ (62.5点)}$$

★2001年	基礎得点	得点
A社（1位）	90	➡ 100
B社（■位）	50	➡ 55.6

倍率（1位のA社が基準）

$$100 \div 90 = 1.1111 \text{倍}$$

$$\text{B社得点} = 50 \times 1.1111 \text{ (55.6点)}$$

# 最近11年のランキング平均点

上位200社	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
総合ポイント	484.0	500.9	516.9	513.7	523.1	520.4	524.6	527.2	531.8	531.9	532.4
人材活用	76.0	81.0	83.6	83.3	84.1	84.8	86.6	86.3	87.3	85.6	85.7
環境	83.2	87.1	86.4	86.4	88.9	89.4	90.2	89.7	89.1	88.5	87.0
企業統治+社会性	85.4	88.9	88.9	88.9	90.0	90.9	91.8	92.2	93.1	91.2	92.0
財務	239.4	243.9	258.0	255.2	260.1	255.3	256.1	259.0	262.4	266.7	267.7
上位700社	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
総合ポイント	403.6	421.1	439.9	440.3	442.2	440.4	449.6	458.4	469.7	469.1	471.8
人材活用	55.4	59.6	63.4	64.3	66.8	68.3	71.4	72.5	75.1	74.2	75.3
環境	59.7	63.8	64.2	65.4	68.6	70.5	73.1	73.2	73.4	74.1	74.0
企業統治+社会性	63.3	67.1	69.1	70.9	73.1	75.1	77.4	79.0	81.0	79.4	81.7
財務	225.2	230.5	243.2	239.8	233.7	226.4	227.8	233.6	240.3	241.3	241.0
全社	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
対象社数	1,116 ※一定レベル 以下も対象	1,059	1,086	1,110	1,136	1,165	1,221	1,284	1,348	1,362	1353
人材活用	47.4	51.8	53.6	53.4	55.2	55.4	56.6	56.0	57.0	57.2	59.4
環境	47.9	52.6	51.9	51.8	53.9	54.4	54.9	54.0	53.0	53.3	54.1
企業統治+社会性	54.2	58.2	58.9	59.2	60.5	61.3	61.7	61.5	62.0	60.3	63.9

- 上位企業は財務が好調。取り組みも高水準を維持。
- 全体的に取り組みが底上げされている。とくに雇用、企業統治+社会性の取り組みが進展。
- 未上場・外資系企業からの回答も増加傾向。

- 少ない情報で基本となるCSR評価を行うことが目的
- 基礎調査の項目（18項目）で評価を実施  
基礎調査の項目は総合調査にすべて含まれる
- 現在は人材活用の項目が中心
- 将来的には役員情報、大株主情報、四季報情報などを組み合わせて評価を行いたい
- 1位はゆうちょ銀行

- サステナビリティフォーラムでダウンロード  
(8年分：2016年～2023年) 可能  
※ 報告書の作成は2013年から開始
- 2022年11月28日に電子メールで、  
**ユーザー名・パスワード**をお知らせ
- CSR企業ランキングのすべての得点をご紹介

CSR 2022年版CSR企業ランキング(第16回)報告書  
TOYOKEIZAI  
2022年11月28日発行

社名: 東洋経済工業

総合得点: 530.0

CSR項目	2022	2021	2020	2019	2018	2017	2016
環境	89.0	87.0	85.0	83.0	81.0	79.0	77.0
社会	85.0	83.0	81.0	79.0	77.0	75.0	73.0
経済	81.0	79.0	77.0	75.0	73.0	71.0	69.0
総合	85.0	83.0	81.0	79.0	77.0	75.0	73.0

※ 2022年版CSR企業ランキング(第16回)報告書は、2022年11月28日発行です。2023年版は2023年11月28日発行予定です。

## 参考：CSR企業ランキング報告書見本

- 総合順位は76位
- 輸送用機器に属してランキングは55社中13位
- 総合ランキングは財務得点有り（1,554社）とCSR得点が一定以上（1,353社）が対象
- 所属業種、全社のCSR関連、財務関連の各部門の合計得点はそれぞれ社数が異なる



# CSR企業ランキング 『週刊東洋経済』掲載号

第1回	2007年5月19日号
第2回	2008年5月17日号
第3回	2009年5月16日号
第4回	2010年5月15日号
第5回	2011年2月26日号
第6回	2012年3月17日号
第7回	2013年3月30日号
第8回	2014年4月 5日号
第9回	2015年3月14日号
第10回	2016年3月 5日号
第11回	2017年3月 4日号
第12回	2018年2月17日号
第13回	2019年2月16日号
第14回	2020年2月22日号
第15回	2021年3月 6日号
第16回	2022年3月 5日号
第17回	2023年2月18日号

評価は第2回調査から実施しているため、調査と評価で開催数に差がある点に注意



## 7. CSR企業ランキングの活用法

---

## レベルアップ

### ■きっかけ

- ・新しく担当になった
- ・幹部から指摘

### ① 目標設定・方針設定

- ・基本方針の見直し
- ・いくつかKPI（重要業績評価指標）を設定
- ・その中のひとつがCSR企業ランキング

### ② 情報収集

- ・自社の情報を収集
- ・他社の情報を収集
- 『CSR企業総覧』『CSR企業白書』を使用

### ③ 開示・取り組み

- ・取り組みを広げる
- ・その内容を開示する
- ・さらに問題点がわかる
- ・強みもわかってくる

### ④ ランキング上昇

- ・200位くらいには上がることが多い



CSR企業ランキングの上昇企業で多いパターン

# 自社の課題発見に役立つ ランキング活用法

『CSR企業総  
覧』を活用

『CSR企業白  
書』を活用

担当者中心に  
決めていく！

ランキング  
上昇も！

① トップク  
ラス企業の  
情報を見る

② 全体・業  
種の平均値  
や状況を見  
る、業種の  
上位も見る

③ 自社が弱  
い点を把握。  
取り組むべ  
き内容を決  
定

④ 実行  
(方針・取  
り組み・成  
果)

⑤ CSRの  
レベルアッ  
プ



- 調査票にご回答いただく中で課題が見えてくることが多い
- まずは従業員とそれに関連する取り組みをじっくり行う
- 環境対応は明確な目標・目的を持って
- 社会課題解決は足元を固めてから
- インパクトは小さくてもそうした企業が増えることで社会全体で大きなインパクトになる
- 中堅上場企業にがんばっていただきたい

## 8. 公開情報からの調査・評価

---

## ①義務化

- コーポレート・ガバナンス報告書
- 女性活躍推進法
- (有価証券報告書)

まだ十分ではないが少しずつ増えている

## ②社会の要請

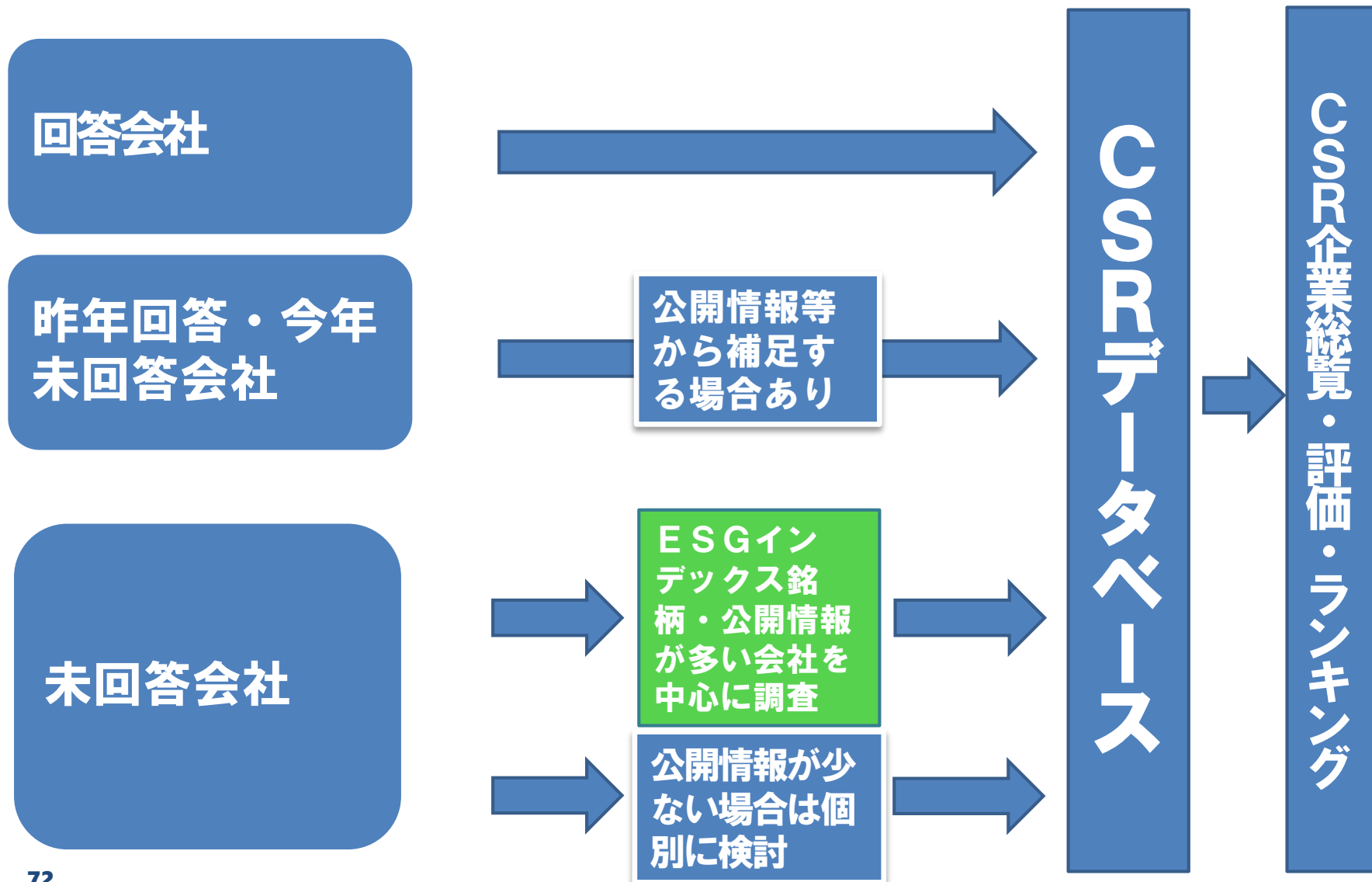
- CSR報告書
- 環境報告書
- 統合報告書
- ESG情報開示の動き
- 各種表彰制度

## ③アンケート

- 『役員四季報』
- 「大株主調査」
- 『就職四季報』
- 「CSR調査」

こちらも必要

現在はアンケート分を含めて企業を評価できるレベルになると考える





## ■問題意識

- 開示情報からESGデータ収集という流れが広まりつつある
- 官公庁などは企業の開示情報を増やそうとしている（有価証券報告書などでのサステナビリティ関連情報の開示義務化など）
- 東洋経済も公開情報から集めていく体制整備が必要という認識は持つ
- 通常の調査票・DBの枠組みに入れたい
- 回答・未回答企業あわせて評価を行えるようにする
- ランキングの対象にもする
- ただし、非常に手間がかかるため2022年の対象企業は8社

## ■2022年調査の結果

- CSRに積極的とされている未回答企業、ESGインデックス企業から8社を調査。
- CSR報告書、女性の活躍推進企業データベースなどからデータを取得
- 取得できる項目は多くなかった
- 特に数値項目が少なかった
- 結果、評価はあまり高くなかった  
⇒開示情報は充実しているが、横並びで「比較可能な情報」は少なかった

## 課題

- 開示情報は多くない
- 特に数値情報が十分ではない
- 人に関するデータがあまりない

基準がバラバラ

評価手法・見方が  
確立されていない

公開情報は十分ではないため依然多くの機関が似たような調査票を送っている

多くの機関が一緒に考えていく時期になった？

- 調査内容の標準化
- 共通項目の共同利用
- アカデミックを中心とした情報の見方の検討

国中心に開示基準を決めていくのがよいのかもしれない

- 有価証券報告書でのサステナビリティ関連情報の開示義務化
- ISSB（国際サステナビリティ基準審議会）によるサステナビリティ開示基準の策定

※上記の詳細について、アンケートご回答特典として編集部レポートをご提供

ただし、「有用な」情報となるかは未知数

**公開情報とアンケート情報を組み合わせて  
「信頼できる会社」の情報を社会に提供していく**

# 9. 今年・今後の 東洋経済CSR調査・評価

---

- 紙・PDF 調査票で実施予定
- 調査票の枚数は維持
- 既存項目のブラッシュアップ
- 調査表・資料の改善
- いずれもご回答の手引きに記載予定

- Web 回答に向けた検討を加速
- 調査にご協力いただけるメリットを増やす
  - 情報の横展開、ご提供資料の拡充など
- SDGs など社会課題解決について全体的に整合性をとれるような項目を目指す
- 基本評価、財務評価の見直しを進める

# 2023年調査のスケジュール

年月	内容
2023年6月	新調査項目を決定。調査票の作成開始 調査票発送（6月下旬発送予定）
7月	PDF調査票作成・セット（CSR Fileダウンロードシステム） SDGs企業ランキング発表予定？
8月	締め切り（8月21日または22日見込み）。編集開始
9～10月	編集・入力・校正等の作業（取材なども）
11月	『CSR企業総覧（雇用・人材活用編）（ESG編）』2024年版発売予定
12月	集計編送付
2024年2月	各種ランキング発表開始 （予定）CSR企業ランキングの発表（『週刊東洋経済』） （予定）CSR企業ランキング報告書ダウンロード開始
4月	『CSR企業白書』2024年版発売予定
4～5月	調査説明会